

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 7 部門第 1 区分
【発行日】 平成 17 年 8 月 4 日 (2005.8.4)

【公開番号】 特開 2003-217508 (P2003-217508A)
【公開日】 平成 15 年 7 月 31 日 (2003.7.31)
【出願番号】 特願 2002-14875 (P2002-14875)
【国際特許分類第 7 版】
H 0 1 J 61/20
【F I】
H 0 1 J 61/20 S

【手続補正書】
【提出日】 平成 17 年 1 月 7 日 (2005.1.7)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 特許請求の範囲
【補正方法】 変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

透光性セラミックにて形成された外圍器内に、一対の電極間の放電によって発光する発光物質を封入して構成したランプ用発光管であって、
前記発光物質に、ハロゲン化ディスプロシウム、ハロゲン化ホルミウム及びハロゲン化エルビウムのうちの少なくとも 1 つと、ハロゲン化インジウム、ハロゲン化セシウム及びハロゲン化ネオジウムとが含まれ、
ハロゲン化ディスプロシウム、ハロゲン化ホルミウム及びハロゲン化エルビウムの総量に対するハロゲン化ネオジウムの比率が 45 mol % 以下に設定されて構成されているランプ用発光管。

【手続補正 2】
【補正対象書類名】 明細書
【補正対象項目名】 0008
【補正方法】 変更
【補正の内容】
【0008】

又、本発明の発明者は、ハロゲン化ディスプロシウム、ハロゲン化ホルミウム及びハロゲン化エルビウムの総量に対するハロゲン化ネオジウムの比率は、光束維持率にも関係しており、前記比率が 25 mol % を超えると光束維持率が低下して行く傾向があることを見出した。